

# 令和元年度学校安全総合支援事業（学校安全体制の構築）の最終報告

学校名 杵築市立杵築中学校

## 1 学校の情報

### (1) 学校規模

杵築市立杵築中学校：学級数10 生徒数 326名 職員数 22名

### (2) 分掌の位置づけ

防災教育コーディネーター（教諭：小柳 哲）

防災教育モデル実践委員 12名

### (3) 地域環境

杵築中学校は、大分県の北東部（国東半島の南部）、別府湾に面した海岸近く、日本一小さいと言われる杵築城の麓に位置している。立地場所は海拔3m未満と低く埋め立て地（地質は沖積層）でもあることから、地震が発生した場合は、津波や液状化の被害が想定される場所である。また、杵築城が建っている学校裏手の「城山」の一部は、土砂災害特別警戒区域になっている。

## 2 取組のポイント

### (1) 研究主題

地域とともに歩む杵中生の防災意識の高揚をめざして  
～総合的な学習の時間を通じて～

### (2) ポイント

「総合的な学習の時間」の年間指導計画の中に「地域を知ろう・地域を守ろう」を全学年の共通テーマとして位置付け、授業実践を行った。各学年の段階に応じた調べ学習等を通じて、地域を学び、今後の防災体制について考える態度の育成をめざした。

## 3 具体的な取組

実施時期	実施事項
4月	校内研修（防災教育モデル実践事業概要説明・計画の共通理解）
7月	防災教育担当者会（今年度の取組やスケジュールについて）
7月	第1回避難訓練
7月	職員研修（学校防災出前講座）
7月	職員会議（実践内容・学習指導案の様式など）
8月	防災教育モデル実践事業に係る実践委員会
9月	校内研修（研究発表会までのスケジュール、研究紀要など）
10月	防災教育担当者会（進捗状況の確認など）
10月	指導主事招聘（学習指導案審議）
10月	杵築地区防災フェア2019（第2回避難訓練）

10月	校内研修（学習指導案審議）
11月	公開研究発表会
1月	第3回避難訓練
3月	研究のまとめ（次年度の取組について）

## （1）授業実践

【1年生：杵築中学校版「防災新聞」の作成】

①ねらい 防災についての基礎知識を調べ、杵築中学校が建っている地理的特徴や防災講話を聞く活動を通して、郷土に愛着を持ち、護り、発展させていこうとする意識を育てる。

②授業の取組

○第1次：「防災について」

- ・防災教育の趣旨説明・目標について聞く。
- ・教材を使い防災について考える。
- ・防災に関する事前アンケートを行う。

○第2次：「防災講演会を聞く」

- ・市役所の方から、中学校の立地状況や特徴を聞く。
- ・杵築市の歴史と防災に関する話を聞く。
- ・感想や学んだことをまとめる。

○第3次：「災害の基礎知識を知る。」

- ・日本で発生した、災害についての基礎知識とその特徴を知る。
- ・災害ビデオを視聴する。

○第4次：「杵築中学校版『防災新聞』作成」

- ・各災害が起きた時、どのような対策が必要か話し合う。
- ・班で調べたい災害について話し合う。
- ・課題を設定し、調べ学習を開始する。

○第5次：「杵築中学校版『防災新聞』作成（2）」

- ・インターネット・文献で情報を収集する。
- ・各テーマに沿って災害について調べる。
- ・調べて気づいた災害への対策や対応をまとめる。

○第6次：「杵築中学校版『防災新聞』作成（3）」

- ・各班が自分たちのテーマに沿った新聞を作成する。
- ・新聞を完成させ、発表練習をする。

○第7次：「杵築中学校版『防災新聞』クラス発表会」

- ・クラス発表をする。
- ・作成した新聞の内容を聞き、メモをする。作成を通じて気づいたことや感じたことを意見交換する。

○第8次：「杵築中学校版『防災新聞』全体発表会」

- ・各班の作成した新聞を学年で発表し、意見交換する。
- ・災害が起きたときの行動について考え、深める。



## 【2年生：杵築中学校版「安全マップ」の作成】

①ねらい 杵築中学校版「安全マップ」の作成を通して、防災意識を高め、郷土に愛着を持ち、護り、発展させていこうとする意識を育てる。

### ②授業の取組

#### ○第1次：「防災と自然災害について」

- ・命を守る防災について知る。
- ・様々な自然災害について知る。
- ・地震および津波の発生メカニズムやもたらされる被害および身の守り方について知る。

#### ○第2次：「南海トラフ巨大地震について」

- ・発生メカニズムやもたらされる被害について知る。
- ・ハザードマップについて知る。
- ・杵築市に想定される被害について知る。

#### ○第3次：「杵築中学校版『安全マップ』の作成準備」

- ・マップに掲載する項目を決定する。
- ・作成手順について知る。・作成区域を分担する。

#### ○第4次：「杵築中学校版『安全マップ』作成（1）」

- ・分担した作成区域の地図に「避難場所・避難路」「役に立つものや場所」を調べて記入する。

#### ○第5次：「杵築中学校版『安全マップ』作成（2）」

- ・分担した作成区域に出かけ、作成区域の場所に「危険箇所」を記入する。

#### ○第6次：「杵築中学校版『安全マップ』作成（3）」

- ・地図に記入した「避難場所・避難路」「役に立つものや場所」「危険箇所」を清書用の地図に記入する。

#### ○第7次：「杵築中学校版『安全マップ』発表会準備」

- ・発表にむけての準備をする。

（作成したマップの内容・作成を通じて気づいたことや感じたことをまとめる。）

#### ○第8次：「杵築中学校版『安全マップ』発表会」

- ・班ごとに作成した防災マップの内容について発表する。
- ・各班の発表を聞き、安全に避難するためにはどのように行動すればよいか考える。



## 【3年生：災害に強い街づくりについて杵築市への提言】

①ねらい わが町「杵築」の災害対策について調べることを通して、郷土に愛着を持ち、護り、発展させていこうとする意識を育てる。

### ②授業の取組

#### ○第1次：「オリエンテーション」

- ・防災教育の趣旨説明、目標について聞く。
- ・東南海地震による津波被害について考える。
- ・課題を設定し、今後の取り組みについて知る。
- ・防災に関する事前アンケートを行なう。



○第2次：「災害についての基本知識を身につける」

- ・東日本大震災に関する基本知識を学ぶ。
- ・感想や学んだことをまとめる。

○第3次：「地震の被害についての想定」

- ・杵築という地域の特徴調べ。
- ・起こりやすそうな災害や被害の予想。
- ・予想した災害や被害の中から、小グループを作る。



○第4次：「市や県の防災対策などの情報集め」

- ・地震に備え、どんな対策が必要か話し合う。
- ・必要な情報や調べる内容について計画を立てる。
- ・班ごとに自分たちのテーマに沿って情報収集する。

○第5次：「現地調査から学ぶ」

- ・現地で危険箇所の把握・調査をする。
- ・これまで調べたことを現地で比較・検証する。

○第6次：「発表に向けて準備する」

- ・集めた情報を整理・分析する。
- ・ポスターのレイアウトを決め、ポスターを作成する。
- ・発表の練習を行なう。

○第7次：「ポスターセッションをし、意見交換をする」

- ・各班の作成したポスターについて説明を聞き、意見交換する。
- ・他班の発表を受けて、自班の提言を見直す。
- ・自班の提言を推敲して、発表し合う。

## (2) 職員研修

地震や津波の基礎知識の学習後、大分県や杵築市で想定される地震について学習した。南海トラフ巨大地震の発生確率が今後30年以内で80%ということ、本校は昔海であり埋立地の上に建てられていること、液状化しやすい場所でもあるということを知った。グループ討議では、「生徒が学校にいるときに地震が発生した」との想定で対応策について話し合った。南海トラフ巨大地震に備え、生徒もわたしたち教職員も命を守る行動が適切に取れるよう研修を深めていかなければならないことを痛感した。

□ 内容：地震、津波について考える（校区の特徴を知る）

□ 講師：防災・環境ラボ代表 上山 容江 氏



### (3) 杵築地区防災フェア2019

今後、予想される南海トラフ地震及び津波に備え、関係機関と連携した避難訓練を実施した。

□主催：杵築地区住民自治協議会

□対象：杵築幼稚園、杵築小学校、杵築中学校、地域住民

□内容：①園児、小学生、中学生、地域住民による避難訓練

②展示・体験活動

災害車両（自衛隊）、緊急車両（警察）、起電車・スモーク車の体験（消防署）、放水・消化体験（消防団）、炊き出し実演（LPガス協会）

## 4 取組における成果と課題

### (1) 成果

① 職員及び生徒の防災意識を高めることができた。

学習開始前と単元終了後に「防災についてのアンケート」を実施した。集約結果を見ると、防災に係る基礎知識を中心に、全ての学年において前回は大きく上回る結果となった。教職員が防災について学び直しができたこと、南海トラフ大地震のコミュニケーションなどをきっかけとした一連の調べ学習によって意識が向上したと言える。

② 自分の住んでいる地域で起こる可能性のある被害について知ることができた。

「防災についてのアンケート」の結果において、特に「自分の住んでいる地域で起こる可能性のある被害について知っていますか」の項目の上昇率が大きかった。生徒自身の出身小学校区に特化して調べ学習を行うことにより、自分事として捉えることができ、意欲的に学習に取り組めたということがこの結果につながったと考える。さらに、3年生では、タブレットを用いた学習を行い、杵築市の防災マップの情報から自分の住んでいる地区の浸水被害や避難場所の情報などを知り、普段の生活では考えられないような危険の予測や危険箇所を現地調査で見出すなど、新たな気づきも生徒の中から多く出てきた。実際に、生徒の発表や感想の中で「改めて自分の地域について深く知ることができた。」「このままではいけない。」「登下校の時には深く考えたことはなかったけど、現地調査で巡ってみるとけっこう危険な箇所がある。」などの記述が見られた。少なからず、「郷土を護り、発展させていこうとする意欲を育てる」ことのできた学習だったと考える。

### (2) 課題

「総合的な学習の時間」を中心とした今年度の取組を機に、カリキュラム・マネジメントを意識した教育課程の編成につなげていく必要がある。系統立てた防災教育の実践を継続することで未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成と主体的に行動できる態度の育成を図りたい。

## 5 今後の取組の見通し

①今年度の総括と次年度に向けた取組方針の決定

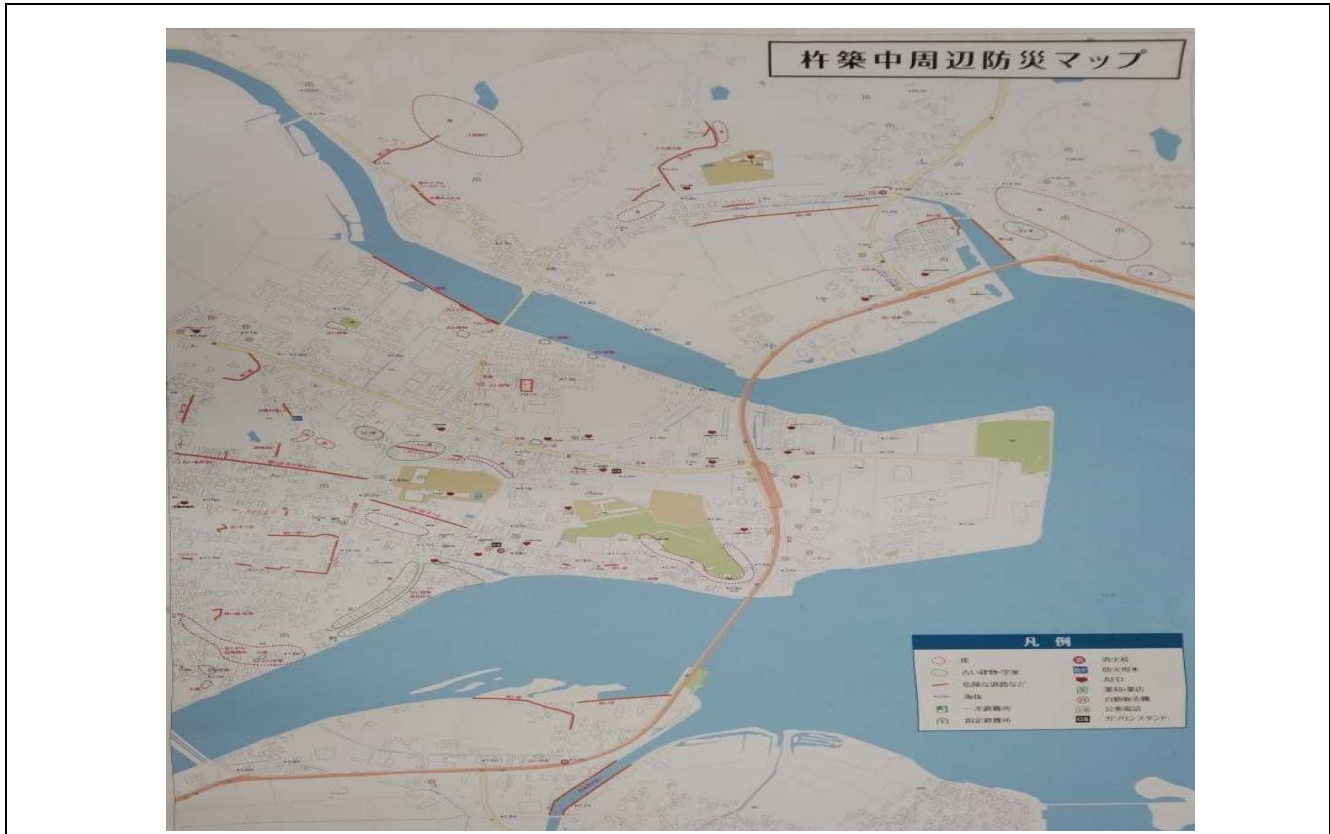
②「総合的な学習の時間」を中心とした教育課程の編成

資料（安全マップ作成報告）

学校名	杵築市立杵築中学校
担当者	教諭 ・ 小柳 哲

対象学年	2年	実施教科	総合的な学習の時間
安全マップ作成の視点		防災（地震・津波）	

安全マップ（写真添付）



<p>指導の工夫点 生徒の様子 成果や課題 等</p>	<p>&lt;成果や課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○普段生活している地域で想定される津波の被害や液状化の被害について知ることができた。</li> <li>○安全マップ作成のためにフィールドワークを行ったことで、さまざまなことに気づくことができた。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段気にも留めない物が危険であること。</li> <li>・坂が急であったり、道が狭かったりする所があるため、高齢者や車いすの方々が避難しにくいということ。</li> <li>・避難所の全てが安全ではなく、通りにくさや対策が必要な場所、天候によって危険な場所等があること。</li> </ul> </li> <li>○災害がいつ起きても落ち着いて適切な行動をとれるように、事前に準備をしておく必要性を感じることができた。</li> <li>○安全マップ作りを通じて、自宅周辺の被害を想定し、早急に家族と避難場所などの相談をしておかなければならないことに気がついた。</li> <li>●今回は学校周辺だったため、校区の一部しか知ることができていない。学習したことを生かし、自宅周辺のことも調べ、家族と話して避難場所を決めたり備えたりしておくことまではできていない。</li> </ul>
---	--